

2021年の動向について

2021年は干支暦で辛丑年となる。別名、胎恩の金と云う。空間を天干、時間を地支と定義し、時間と空間を組み合わせて現実が生まれるとしている。天干を甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の十種類、地支を子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二種類に分類し、天干地支の組合せで干支暦は出来ている。十干と十二支で120パターンが出来て、その60個を陽、もう半分の60個を陰と定め、干支暦は陽の60個を使用する。その中で2021年は天干が辛、地支が丑の辛丑年となる。

ちなみに干支暦は春分で年が切り替わるので、今月はまだ庚子年である。年干支は庚子、月干支は己丑月となる。過去3年間の戊戌、己亥、庚子は普通ではない異常な干支である。2021年は、その異常な3年間の干支を抜けるが、辛丑は別の意味で特殊な干支である。2020年度までの3年間とは違い、2021年度の辛丑は引き続き特殊な改善をする必要がある。プライベートの時間は出来るだけ孤独の時間を創り、大いなる存在に感謝することが改良のポイントとなる。また品格のある言動を意識し、責任を全うする意識を持つ事だ。辛丑干支の改良方法の詳細は後に触れよう。

今月は日干支との組み合わせにも依るが、年と月の干支関係を分析すると、地支が泥濘となり、急いで生きると泥沼にハマって身動きが取れなくなる。2021年1月は庚子年が明ける最後の月でもあるので、焦らずに、じっくりと、丁寧に生きた方が良い。

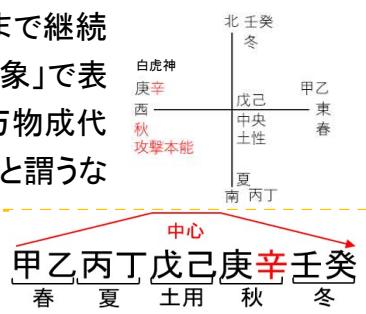
話は少しそれるが、私は経営者でもないし、組織のリーダーでもないし、政治家でもないから、帝王学を学ぶ必要はないのではないかと思われる方もいらっしゃるかもしれない。しかしこの学問は、その者に与えられた宿命を陽転させて、今世に与えられた役割と使命を全うする事が主目的である。意識的に自己の宿命に合わせた環境を作り、在り方の改善をしたら、誰でも陽転する。そして陽転した結果、必然的に帝王としての立ち居振る舞いを求められる存在になるだけなのだ。帝王だから学ぶ必要があるのではなく、要点を押さえて生きていけば、誰でも大きな存在力と影響力を持ち、帝王として必要とされ、そのポジションを与えられるのだ。帝王になる事は目的ではなく、手段でしかない。本学問の主目的は、自分の今世与えられた御靈を燃焼させきる事である事を忘れてはならない。御靈と云うエネルギーの完全燃焼が目的であり、その結果、様々なアクセサリーが圧倒的な存在力と魅力で引き寄せられてしまうだけである。因果で表現するならば、結果を観ずに、原因を観る事である。エネルギーの不完全燃焼は病気を引き起こし、生き甲斐の無い人生を歩む事になる。宿命に与えられたエネルギーの完全燃焼方法は簡単だ。今この瞬間、刹那を一所懸命に生きる事である。宿命の総合エネルギーを燃焼しきる事が陽転のポイントである。

それでは辛丑の意味合いを解説してみよう。十干の辛は陰の金性で方角は西、季節は秋である。秋は農作物を収穫する時期であり、同時に稲作の終わりの時期でもある。今まで継続してきたものを収穫し、終わらせる時期となる。また辛は五行表の「自然界の事象」で表すと「宝玉、小刀、小石」となる。辛は次の様に定義されている。「辛は新なり。万物成代し、改更して新に復るを謂ふなり。万物みな肅然として改更し、秀実新たに成ると謂うなりと」。これを訳すと「辛は新である。万物は成長して代わり、一つ前の庚で革新したのに代わって新しいものを創造する。西方白虎神の通りに“殺傷する所以なり”と表現され、古い慣例を鋭利な刃物で切り捨てて、新たな価値創造をする」事を意味している。昨年の庚には3つの意味が付されていた。1つは「継承」、2つは「償う」、3つは「革新」である。つまり今までのものを継承・存続しながらも、課題や罪・汚れを払い淨めて、

天干	甲乙丙丁戊己庚辛壬癸
地支	子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

2021年1月
○己庚
○丑子
化水

2割:陽転者
8割
既成概念
から抜け
られない者



償うものは償い補うべきものは補い、必死の覚悟で変革をして改めていく事が昨年の意味であった。それを踏まえた上で、更に新たな創造をしていくのが陰の攻撃本能を司る辛である。庚は変わるという意味があり、万物が生長すると、姿形がその生長に合わせて大きく変化する様子をあらわしている。つまり一旦休んで次に備え、勢い盛んに次の新しい姿へと変化する事で、新しい状態に生まれ変わる事を示している。その生まれ変わる状態を受けて、辛は新の事であり、万物が全て縮んであらたまり、秀でた実が新たにできる様子を示しているのだ。また辛は、これまで下方に伏従していた陽エネルギーが様々な矛盾や腐敗を鋭利な小刀で切除き、本質を浮き彫りにしていくという姿を表現している。闘争、犠牲という意味を含む。辛には殺傷という意味もあるが、前年の庚の改革エネルギーを受けて、断固として革新を実践するためには殺傷をも、覚悟する必要があると定義している。この意味において日本の菅首相の改革政策は、辛丑干支の方向に合っている。今までの慣例を圧倒的なパワーを以って、破壊と再生をさせるのに善き時期であるのだ。

一方、十二支は丑である。文献には次の通り記されている。「丑は紐なり。紐は繋なり。萌えを続けて、長ずる繋ぐなり。故に子に孳萌(じほう:繁殖する能力の萌しを見せる様の事)し、丑に紐牙す。紐結を以て名をなすと」。これを訳すと「丑は紐で絞めることであり、紐は繋ぐことに通ずる。どんどん芽生えて大きくなる新芽を紐で縛ってまとめていくことで、新たなものを創り出す起因にする」となる。丑には、複雑に折れ曲がり、バラバラに成長し出している新芽を、紐でまとめて伸ばすという意味合いがある。12月の子で種蒔きをして煩雑に芽生えたものを、発芽させて、まとめていくのが丑の意味であり、祭儀の際、牛を犠牲に供した事から牛は殺される自分の運命に従って、甘んじて殺されると云われ、その犠牲的精神が丑の属性となる。

それでは、辛丑を組み合わせた意味を考察しよう。辛と丑は、相生相剋論で土生金という相生関係にある。相生とは一方がもう一方を生じる状態である。辛丑は、土が金を生成するという意味になる。丑という水分をたっぷりと含んだ土の中から、新芽が曲がりつつ伸び悩んでいる状態を、辛が今まで下方に伏在していた陽気の活動エネルギーを矛盾やしがらみを排除して、真っ直ぐに伸びていく様に導く状態である。好転していくが、まだ新芽が出たばかりの状態なので、無理に伸ばそうとすると傷敗を伴う事になる。早急な成果を得ようとすると、痛い目に合う時期もあるのだ。しっかりと新芽がまっすぐに伸びるように、時間をかけて丁寧に育んでいく時期となる。過去3年間の異常な時期を抜けて、飛躍していく手前の時期となる。天地相生の干支が廻る時期は気が満たされる。辛丑の干支は、地支が天干を生じている。現実を知性と愛情をもって生きていけば、品格のある社会的影響力を持つ精神状態が増幅していく事になる。ポイントは焦らずに、コツコツと積み上げていく事である。地支が水分を含んだ冬の土なので、泥濘の道を歩んでいるのと同じである。一歩一歩、着実に歩みを進めないと、辛の社会的役割、および宝玉として輝いていく価値が埋土してしまう危険もあるからだ。

さて干支は60年に一度、同じ干支が廻る。つまり60年ごとに国家は同じような事象を繰り返すという事が学問として分析できる。60年前の事象を考察する事は、60年後の2021年の国家事象の予測に繋がる。それでは60年前に何が起こったかを振り返ってみよう。

60年前は1961年(昭和36年)になる。

- 1月 アメリカ合衆国、キューバに対して国交断絶通告。アメリカ大統領にジョン・F・ケネディ就任。
- 2月 医療費値上げ要求で、日本医師会と歯科医師会が医療危機突破闘争総本部の設置。
- 3月 社会党大会で委員長に川上丈太郎氏を選出。
- 4月 国民皆年金、国民皆保険制度発足。
- 5月 韓国で軍事革命委員会によるクーデタが発生。

6月 農業基本法の公布。

7月 厚生省、小児マヒの生ワクチン 1300 万人分をソ連から緊急輸入し投与開始。

8月 大阪釜ヶ崎で暴動、警官隊と衝突。東独、ベルリンの壁構築。

9月 第2室戸台風が室戸岬に上陸し、大阪湾岸に大きな被害。

10月 南ベトナム、非常事態宣言。

11月 公明党の前身「公明政治連盟」発足。

12月 第二次池田勇人(自民党)内閣発足。

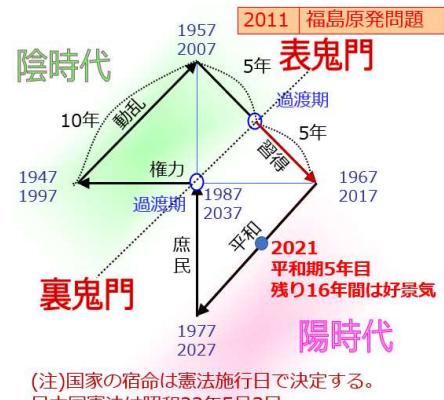
上述の通り、1サイクル前の辛丑年ではワクチンの問題、暴動、自然災害などがあった。2021年の今年も、上述と同じような事象が発生し易いと予測できる。

また2021年辛丑を国家運気で観ると、陽運気に入っている。数年前からの日本国は運気は昔の高度成長期ほどではないが、アップダウンを繰り返しながらも、全体的に徐々に明るさを取り戻しつつある。そんな全体運の気が満たされた状態にある日本国家は、2021年は辛丑年となる。今年は泥濘の道を一步一步踏みしめながら、役割意識、一つの特出した知的分野を磨いて、他者と愛情をもった接し方を意識する事がテーマになる。辛=特別意識・社会的役割、丑=愛情深く、聰明な泥濘を意味するからである。天干が辛なので牽牛星に変化する。従って開運の基本は、体を鍛えて、着実に行動を積み重ねる事である。健全な肉体には健全な精神が宿る。適度な運動と適切な食事管理を行うことが大切である。昨年に引き続き注意が必要なのは、天候の乱れと地震である。地支が丑で水が多く含んだ土を意味するので、気温の乱高下、土砂崩れや津波等の水害、地震が懸念されるので、防災には対策を考えて準備しておくことだ。

国家や会社組織は50年で1サイクルをする。動乱期（不景気の10年）→習得期（不景気が5年と好景気が5年）→平和期（好景気の10年）→庶民期

（好景気の10年）→権力期（不景気の10年）という50年1サイクルを巡る事となる。不景気の25年、好景気の25年を繰り返していく。不景気は前の好景気で作り上げた古いパラダイムを壊し、より良いパラダイムを構築する、破壊と再生の役割を担う。その不景気で作り上げた新たなパラダイムや社会基準を好景気に依って発展させ開花させる役割がある。不景気も好景気も、それぞれが相互依存の関係に在り、互いに影響をしあっているのだ。従って帝王は目先の数年だけを観ていては判断ミスをする。

最低50年、出来れば100年先を見据えた意思決定をする必要がある。国家のスタートは憲法施行日、会社のスタートは会社登記日（定款日）となる。日本国はスタートして75年目を迎える。好景気と不景気の50年の1サイクルを巡り終わり、現在は2サイクル目の好景気の10年目になる。学問的に日本国家は好景気（好景気と云ってもずっと右肩上がりなわけではない）が残り16年あるという事になる。2021年は平和期（経済が発展する経済台頭期）の5年目となり、好景気時代に入る。概ね景気は改善されるだろう。コロナ禍で経済の乱高下はあったが、辛丑年の日本の国運は、緩やかに上昇気運となると予測できる。アップダウンを繰り返しながらも、経済は徐々に台頭していくであろう。干支は60年で1サイクル、国家や会社は50年で1サイクルであることを、混同しないようにして捉えて欲しい。昨年も言及したが日本は、二旬目の経済台頭期に入った。二旬目の経済台頭期は、経済台頭する者としない者に二極化する。その分かれ目は定量化できない「人間力」を高められるかである。AI（人工知能）とRPA（バックオフィス業務などをはじめとするホワイトカラー業務をソフトウェアに組み込まれたロボットが代行する取り組み、およびその概念）が台頭し、各業界が産業革命を起こす真っただ中にい



(注)国家の宿命は憲法施行日で決定する。
日本国憲法は昭和22年5月3日。

る。ルーティン業務は自動化され、人間の仕事が無くなっていく。あれだけ現実化が出来なかつたリモートワークも一挙に現実化した。今まで以上に人との距離感が発生し、孤立を生み易い社会構造に移行する。従つて人間力が問われる業務が、人間に求められるようになる。その意味でも陰陽五行論を学び、人間力を身に付けていく事は時代論から観ても有利に働くしていくだろう。

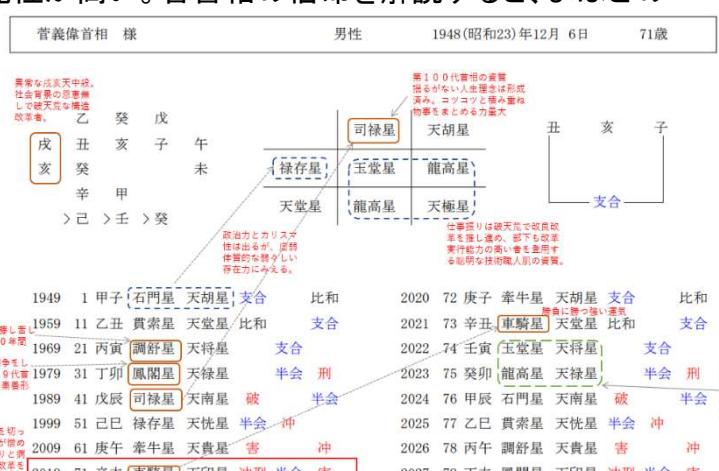
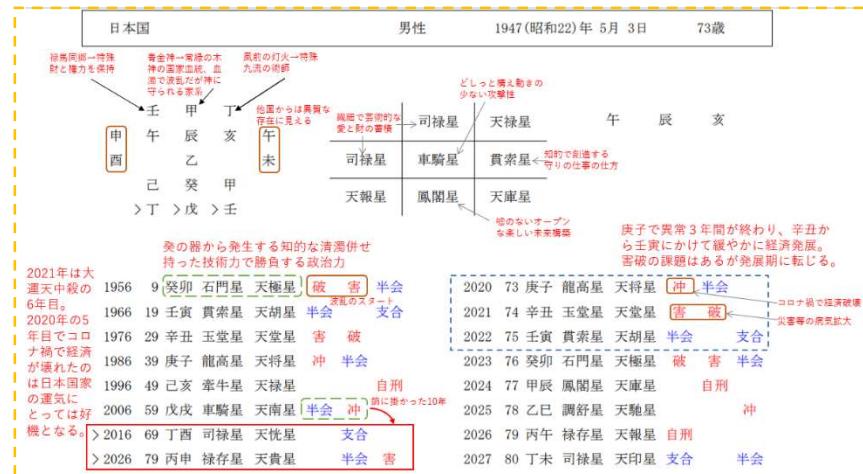
ここからは、日本国の大運天中殺という観点から読み解いてみよう。日本の宿命は申酉天中殺で、経済発展が異常に進む資質を有している。そして2006年から2015年までの10年間で篩に掛かり、それを生き延びた国家である。その上で2016年から20年間の大運天中殺に入り、2021年はその6年目である。向こう15年に渡り、大運天中殺の陽転現象が緩やかに起こる。緩やかな陽転現象は、7旬目からの大運スタートだからである。どちらにせよ、好運気に入ったことは間違いない。また入りの5年間に、

大きな破壊現象を起こすことが、日本の宿命の陽転条件であった。それを踏まえた上で、昨年の西方四正対冲が大きな破壊現象を起こしたことは、絶対的な陽転現象への起因になる。実際に日本は経済が大きく破壊現象を起こしたので、国家的視点から鑑みると、2020年の経済や社会構造の破壊現象は善き事象であり、今後日本が発展する起因となると読み解ける。詳細は口頭ベースで解説をする。

また2020年に就任した第99代菅首相は戌亥天中殺が明けて、これから運気が強くなっていく。2021年度に実施予定の解散総選挙も勝つ可能性が高い。菅首相の宿命を解読すると、よほどの事がない限り、99代から100代首相で政

権維持をする可能性が強い。社会現象として捉えるとアメリカ合衆国と近しい構造になる。アメリカはバイデン氏が強くて勝つのではなく、トランプ氏が自滅する事で勝利を得る宿命になっている。日本は菅首相が強くて勝つのではなく、野党が弱く、与党内にも菅首相を越える人材が現時点では排出できない環境にある事から、結果的に菅首相に勝ちが転がり込む構造である。

しかも、菅首相は99代および100代の運気を持っていて、100代首相に就任してから本領発揮をする。理由は北方司禄星が輝くからである。菅首相は平和な世の中を創り出していく役割を持っている。その相反性として、自身の心情は隠し、知的戦略で敵対するものを討伐する力量を発揮する。その要となるのが、菅首相の奥様の存在になる。奥様が菅首相の下支え的役割を果たす存在となった場合、菅首相は力量以上の存在力を得る宿命である。更に100代首相に就任する事で、安定的な緩やかで安全な経済発展をけん引する力量を発揮する。ただし、仲間と協調しながら政治を進めるのではなく、一匹狼的な行動で先頭を走って知的能力の高い改革能力のある部下を率いて変革する資質がある。ここが批判の対象にもなり、菅首相の凄さにもなる。そして101代目の首相は違う政治家が担う可能性が高い。菅首相は100代目首相に就任すると猛烈に稼働力を発揮して変革を推進していくが、車騎星大運なので、年齢的にも体力の消耗が激しく100代首相を



務める事で燃え尽きてしまう可能性がある。単独で他者にお尽くしをする事で、徳が上がる大運を生きている。

2021年夏のオリンピックも、コロナ次第だが、形を変えて実施する可能性が高い。世界各国へスポーツを通して、夢や可能性を訴えていく機会になる。コロナ感染が、よほど拡大をみせない限り、オリンピック・パラリンピックは開催されるだろう。東京五輪を象徴として世界平和を訴えていくのが、今の日本国家の役割であると読み解ける。その理由は日本の国家運気が平和期にあるからであり、そのリーダーの菅首相の宿命が戦いに勝つ幸運気にあるからである。また日本国民は相対的にワクチンに対する嫌悪感を持っているが、その恩恵もある事も含めて辛丑年を機に考え方を改める必要がある。ワクチンも薬もメリットとデメリットの両方がある事を理解して対応すべきだ。

海外に目を向けると、アメリカの国家運気は庶民期の4年目に入る。民衆の意見が台頭して政治はポピュリズムに走るだろう。トランプ前大統領が就任した時から解説してきたが、2020年と2021年は、トランプ前大統領は子丑天中殺の期間であり、大運天中殺の16年目に入り、下降運気になる。従って、相手が強くて負けるのではなく、自滅して敗北するとお伝えし続けてきた。正に宿命通りになっている。バイデン次期大統領は強くて勝ったのではなく、トランプ氏がこけて、勝ちを得ただけである。バイデン氏の宿命を観ると、2021年は経済的に厳しい船出になる。バイデン氏は、第46代大統領になるが彼の宿命を観ると北方と大運初旬に牽牛星がある。第46代大統領の資質は持っている。従って年運から観て2021年の船出は厳しいが、2022年からは比較的、安定した模範主義、権威主義的体制を施策していくだろう。

一方、中国の動向について。中国の宿命は1954年9月20日「中華人民共和国憲法」(54年憲法)をスタートとする。中国はその後、何度も憲法改正を行っているが、1982年に制定された現行憲法は、基本的に54年憲法を基盤としているので、1954年が憲法施行日と観ると師から教わった。その観点で分析すると、2021年は憲法施行から68年目になる。中国は2018-19年に表鬼門を通過した。米中の経済戦争が激しくなった時期である。そして2021年の中国は習得期の8年目にあり、富裕者層と一部の大企業のみが内部留保金を蓄積する好景気の3年目に入る。习近平主席(日干支:癸未。公表は1953年6月15日だが、実際は1953年6月1日であると推測できる)は申酉天中殺である。习近平氏は現在67歳で、まだ若い。2022年に大運7旬目に入るので、大運6旬目の節にかからず、2021年の内部反乱を押さえることが出来れば、経済的に更に発展していくと予測できる。しかし、陰陽五行論では、独裁政治は長く続かないという法則もある。あるとき、突然、クーデターが起こる可能性も否めない。従って、今後の中国経済は成長をする傾向を持ちながらも、波乱含みである事を理解して付き合う事だ。

2. 2021年の意識するポイント

辛丑年は、次の要素を意識して生きていくとよい。

- ・日本国家は陽の経済発展時期なので、明るい肯定的な言葉使いをする。自他の課題に焦点を当てるよりも、自他の豊かさや可能性を見出す意識をする方が良い。常に肯定的な言葉を放つように意識をしていく事である。善き言葉は、善き言霊に通じ、善き結果を導くものである。悲観的にならずに、楽観的な側面を見出す改善をすることだ。
- ・急がずに、じっくりと耐える。発展する時期ではあるが、現実を意味する十二支は丑なので、まだ泥濘である。一步一步、着実に歩んでいく事である。換言すると成果を急いで創り出そうとせずに、たとえ遠回りに觀えても、目の前の与えられた環境に感謝をしながら、人生を歩む事である。
- ・陽の気を辛が引き出し、底力が發揮できる時期でもあるので、特に寒い時期は考え過ぎずに明るく振る舞い、徐々に暖かくなってくる晩春から仲秋にかけては、思慮深く生きるメリハリをつけて、

リズム感をもって生きることである。つまり、ダラダラ生きない事である。辛の攻撃本能を活かして、品格の良い、現実的な行動に落とし込んでいく事である。気が満ちていくチャンスの時期に現実的な行動をしないと成果には繋がらない。再述するが、リズム感をもって着実に行動をする意識を持つ必要はあるが、急いで成果を求めない事がポイントである。一見、無関係に想える要素がいつも集まって成果に繋がるからだ。これは空思想の基本であり、因果の法則の根幹的思想である。人生に不必要的事は起こり得ないので。人生で体験する全ての事象に「お知らせ現象」があり、そのメッセージをキャッチアップして、行動変革をしていく事である。

・東方が支配する仕事や学業は単独では動かすに、役割を持った集団形成を意識する。辛丑は知的集団と解釈できる。辛=牽牛星、丑=知性のある土性(集団)と定義されるからだ。品の悪い人の付き合いは極力避けて、品の良い方との接点を持つ事で改良出来る。辛は鋭利な小刀という意味合いもあるので、辛丑年を機に、悪因縁を鋭利な小刀で切り捨てて、綺麗な生き方を心掛けていく事である。悪因悪果、善因善果が正しいかを論じるのはここでは避けるが、不必要的古い慣例や、汚い生き方をしている人との関係は辛で切り落とし、綺麗な生き方をしようと心掛けている人や新たな価値創造に労力を注ぐ事が改良となる。

・東方の反対の西方が支配するプライベート、家庭では、孤独の一人の時間を意識的に創り出すことが大切になる。辛丑の時期は、東方の公的に属する領域においては、目的意識を持った集団形成をしながら現実対応をする事が基本であるが、私的な領域においては、一人の時間を創ることが大切である。仕事や学業が終わったら、ダラダラせずに、すぐに帰宅する。懇親会は1次会だけで終えて、2次会、3次会とダラダラ延長しない。目的意識や役割意識、責任をもって、仕事や学業や懇親会を実施して、目的が達成したら、キッパリと切り上げて、集団ではなく、1人で帰る。そしてプライベートでは家族と過ごす時間が増えるが、その中でも意識的に自分一人の時間を創り出すことが、善き運気を導いてくれる。

2021年2月3日から辛丑年がスタートする。2021年度は、節入り日が例年の2月4日より1日前倒しになる。辛丑が廻る2021年をより善き人生にする為にポイントを押さえて人生を歩んで欲しい。